

# I 調査の概要



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

大田区の各行政分野における区民の意向・要望・生活実態を把握するとともに、今後の区政運営や政策立案の基礎資料とする。

## 2. 調査項目

- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| (1) 定住性                  | (10) 国際交流       |
| (2) 暮らしやすさ               | (11) 大田区の観光     |
| (3) バリアフリー・ユニバーサルデザイン    | (12) 地域力の土台づくり  |
| (4) 生きがいと誇りをもって暮らせるまち    | (13) 災害に強いまちづくり |
| (5) スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち | (14) 防犯に強いまちづくり |
| (6) 安定した暮らしと人権           | (15) 地球環境       |
| (7) 潤いとやすらぎのあるまち         | (16) マイナンバー制度   |
| (8) 世界へ羽ばたくまち            | (17) 区政への関心と要望  |
| (9) 未来につながる空港臨海部         |                 |

## 3. 調査の設計

- |          |  |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 大田区全域  |
| (2) 調査対象 | 大田区内に在住する満18歳以上の男女個人（外国人を含む）                               |
| (3) 標本数  | 2,000人   |
| (4) 抽出方法 | 層化無作為抽出法   |
| (5) 調査方法 | 郵送調査。ただし、回収方法は郵送回収に加え、スマートフォン、携帯電話およびパソコンを利用した電子申請からの回答も実施 |
| (6) 調査期間 | 平成29年7月13日（木）～8月1日（火）                                      |
| (7) 調査機関 | 株式会社エスピー研  |

## 4. 回収の結果

- |           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| (1) 回収数   | 1,010人（電子申請135件含む）（回収率 50.5%） |
| (2) 有効回収数 | 1,010人（有効回収率 50.5%）           |

## 5. 報告書の見方

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) クロス集計の図表では、分析軸となる質問(性別、性/年齢別等)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- (4) 回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。
- (5) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。

## 6. 標本誤差について

この調査の基本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の表のとおりである。基本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数(n)、及び②回答の比率(P)によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差  
 N = 母集団数(大田区の満18歳以上の男女個人)  
 n = 比率算出の基数(サンプル数)  
 P = 回答の比率(%)

※後にかかげる表は  $\frac{N - n}{N - 1} \div 1$  として算出した。本調査は層化を行っているので誤差はこの表よりやや小さくなる。

たとえば、回答者総数(1,010人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%で

あった場合の標本誤差を計算すると、

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{0.5 \times (1 - 0.5)}{1,010}} = \pm 3.1\% \text{ となる。}$$

つまり、回答者総数(1,010人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%の時、大田区民(満18歳以上の男女)の真の値は46.9%~53.1%の間にあると考えられる。ただし、信頼度は95%であるので、95%の確率で間違いないと判断できるという意味である。

nとPを上記の式に代入すれば、必要な標本誤差はすべて計算できる。

標本誤差早見表は下記の図のとおりである。

図1 標本誤差早見表 (信頼度 95%)

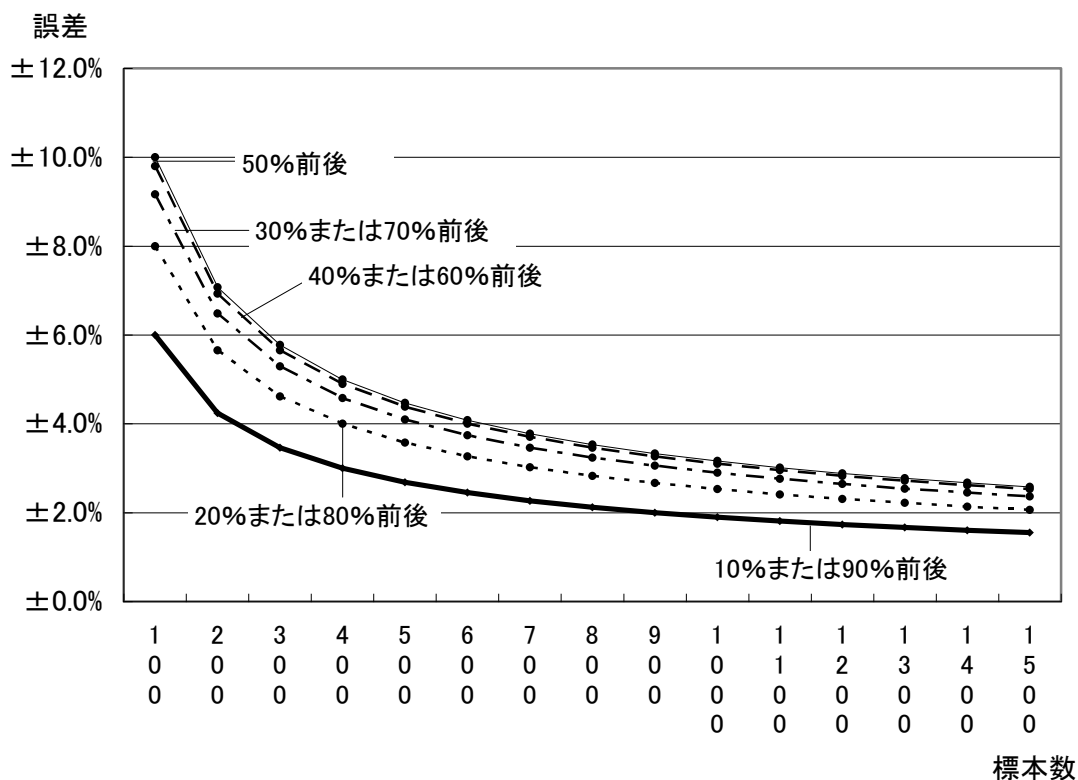


図2 本調査における標本誤差一覧 (信頼度 95%)

回答の比率(P) 基数 (n)			10%または	20%または	30%または	40%または	50%前後
			90%前後	80%前後	70%前後	60%前後	
全体		1,010	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.1%
地域別	大森地域	338	± 3.3%	± 4.4%	± 5.0%	± 5.3%	± 5.4%
	調布地域	276	± 3.6%	± 4.8%	± 5.5%	± 5.9%	± 6.0%
	蒲田地域	288	± 3.5%	± 4.7%	± 5.4%	± 5.8%	± 5.9%
	糞谷・羽田地域	94	± 6.2%	± 8.3%	± 9.5%	±10.1%	±10.3%
性別	男性	404	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
	女性	545	± 2.6%	± 3.4%	± 3.9%	± 4.2%	± 4.3%
性／年代別	男性10・20代	50	± 8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%
	男性30代	70	± 7.2%	± 9.6%	±11.0%	±11.7%	±12.0%
	男性40代	69	± 7.2%	± 9.6%	±11.0%	±11.8%	±12.0%
	男性50代	83	± 6.6%	± 8.8%	±10.1%	±10.8%	±11.0%
	男性60代	54	± 8.2%	±10.9%	±12.5%	±13.3%	±13.6%
	男性70歳以上	74	± 7.0%	± 9.3%	±10.7%	±11.4%	±11.6%
	女性10・20代	49	± 8.6%	±11.4%	±13.1%	±14.0%	±14.3%
	女性30代	71	± 7.1%	± 9.5%	±10.9%	±11.6%	±11.9%
	女性40代	131	± 5.2%	± 7.0%	± 8.0%	± 8.6%	± 8.7%
	女性50代	85	± 6.5%	± 8.7%	± 9.9%	±10.6%	±10.8%
	女性60代	96	± 6.1%	± 8.2%	± 9.4%	±10.0%	±10.2%
	女性70歳以上	110	± 5.7%	± 7.6%	± 8.7%	± 9.3%	± 9.5%

## 7. 調査対象者の抽出

- (1) 母集団 大田区内に在住する満 18 歳以上の男女個人（外国人を含む）  
（平成 29 年 4 月 1 日時点）
- (2) 抽出台帳 大田区住民基本台帳
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 抽出法 層化無作為抽出法
- (5) 地域区分 区内を、4 地域（大森、調布、蒲田、糎谷・羽田）に分類し、それぞれを層とした。

地域名	所管区域
大森地域	大森東特別出張所管内、大森西特別出張所管内、入新井特別出張所管内、馬込特別出張所管内、池上特別出張所管内、新井宿特別出張所管内
調布地域	嶺町特別出張所管内、田園調布特別出張所管内、鶯の木特別出張所管内、久が原特別出張所管内、雪谷特別出張所管内、千束特別出張所管内
蒲田地域	六郷特別出張所管内、矢口特別出張所管内、蒲田西特別出張所管内、蒲田東特別出張所管内
糎谷・羽田地域	糎谷特別出張所管内、羽田特別出張所管内

図 3 地域図



- (6) 標本数の配分 各地域における 18 歳以上の人口（平成 29 年 4 月 1 日現在）に応じて標本数を比例配分した。
- (7) 対象者抽出 1 地域ごとに、「(6)」で設定した標本数を無作為抽出した。

以上の結果、地域別の標本数及び有効回収数は次のとおりである。

地域名	18歳以上人口(構成比)	標本数	有効回収数(率)
大森地域	208,810 ( 33.4%)	668	338 (50.6%)
調布地域	160,125 ( 25.6%)	513	276 (53.8%)
蒲田地域	188,592 ( 30.2%)	603	288 (47.8%)
糀谷・羽田地域	67,507 ( 10.8%)	216	94 (43.5%)
無 回 答			14
合 計	625,034 (100.0%)	2,000	1,010 (50.5%)

